

夢の大舞台で浦高ラグー達!

●明日、いよいよ第1戦!

本日10時30分、いよいよ「第93回全国高等学校ラグビーフットボール大会」が開会しました。わが母校も明日12時40分から滋賀県代表・光泉高校とぶつかります。さまざまな場所で期待が膨らんでいます。そんな最近の新聞記事から…。

* *

◆文武両道の浦和、新入生勧誘に秘策

今年の東大合格者数が46人(浪人含む)と公立高では全国トップの埼玉県立浦和高校(さいたま市)が、27日に近鉄花園ラグビー場(東大阪市)で開幕する第93回全国高校ラグビーフットボール大会に出場する。全国大会は54年ぶり2回目。花園が会場になってからは初めてだ。文武両道を地でいく「浦高ラグーメン」の戦いぶりやいかに。【大平明日香】【写真①:花園に向けて練習に励む浦和フィフティーン=さいたま市浦和区の埼玉県立浦和高校で】



暗闇がグラウンドを覆った午後6時半。練習を終えた3年生部員たちは汗まみれのジャージーから制服に着替え、教室に向かう。26人全員が東大など国立大学を志望。全国大会直後の1月中旬に大学入試センター試験を控え、夜遅くまで自習に励む。OBで就任13年目の小林剛監督(39)は「彼らの苦難にチャレンジする気持ちを後押ししたい」と力を込める。

地元で「浦高(うらこう)」と親しまれている同校は1895(明治28)年創立。埼玉県内の高校としては最も歴史の古い男子校で、同窓生は約3万人を数える。「尚文昌武(しょうぶんしょうぶ)」=文を尚(たつと)び、武を昌(さか)んにす=の精神を掲げ、勉強だけでなく行事や部活にも全力で取り組むのが伝統だ。

ラグビー部は1946年創部。59年度の大会以降は長らく全国の舞台から遠ざかっていたが、近年は堅守のフォワード主体のチームとして決勝の常連校に成長。今年はさらにバックス展開も併せ持つ「ボールを動かす」ラグビーへモデルチェンジを図り、11月16日の全国大会予選決勝で6連覇を狙う深谷を14-7で降した。

近年の復活を支えた要因の一つは72人に上る部員数だ。ラグビーの競技人口が減少する中で、県内の高校で最多を誇る。

近年の復活を支えた要因の一つは72人に上る部員数だ。ラグビーの競技人口が減少する中で、県内の高校で最多を誇る。

その秘密は毎春、新入生勧誘のために部員たちが組む「強カスクラム」だ。放課後に校門前で新入生の帰りを待ち伏せ、昼休みには目をつけた子の教室に通って一緒に弁当を食べながら、ラグビーの楽しさを伝える。現部員の入学前からのラグビー経験者は4人でほぼ全員が初心者。しかし、厳しいレギュラー争いがチーム力の底上げにつながった。

「おめでとう。頑張ってる」。11月下旬、国際宇宙ステーションに滞在中の浦和OB、若田光一さん(50)から応援メッセージが届いた。同窓会(川野幸夫会長=スーパーマーケット・ヤオコー会長)は特別後援会を結成し、寄付金集めに奔走。花園のスタンドに1000人超の応援団が結集する見込みだ。

柴田尚輝主将(3年)は「勉強と部活の両方を一生懸命やっているからこそ、応援されるチームだということを忘れずにいたい。花園での目標は2勝」と意気込む。初戦は28日。光泉(滋賀)と花園の第1グラウンドでぶつかる。

【ヤフー・ニュース、12月26日】

* *

◆浦和高校で壮行会 主将「絶対に勝ちたい」

第93回全国高校ラグビーフットボール大会に出場する県立浦和高ラグビー部の壮行会が24日、さいたま市浦和区の同校であった。柴田尚輝主将(3年)は全校生徒約1100人を前に「低いタックルと粘り強いプレーで絶対に勝ちたい」と力強く誓った。

壮行会は、全国・関東大会に出場する囲碁将棋部と合同で開催。杉山剛士校長は、埼玉県出身で元ラグビー日本代表監督、宿沢広朗さんの座右の銘「努力は運を支配する」を紹介し、「運をつかむのは日々の地道な努力にほかならない。最後まで努力を続け、大舞台で浦高魂を見せてほしい」と激励した。学生服姿の応援団が校門前で熱いエールを送る中、選手たちはクラスメートや近隣住民らに見守られながら、花園に向け出発した。大会は27日、東大阪市の近鉄花園ラグビー場で開幕。浦和は28日の1回戦で、光泉(滋賀)と対戦する。【大平明日香】【写真②:応援団(右手前)のエールを受ける選手たち=さいたま市浦和区の県立浦和高校で】【毎日新聞、12月25日】



学生服姿の応援団が校門前で熱いエールを送る中、選手たちはクラスメートや近隣住民らに見守られながら、花園に向け出発した。大会は27日、東大阪市の近鉄花園ラグビー場で開幕。浦和は28日の1回戦で、光泉(滋賀)と対戦する。【大平明日香】【写真②:応援団(右手前)のエールを受ける選手たち=さいたま市浦和区の県立浦和高校で】【毎日新聞、12月25日】

* *

さて明日が楽しみですね。友人からの観戦記も…。

* *

◆日本ラグビー協会専務理事が浦和高にエール 全国大会初出場時のOB



第93回全国
高校ラグビー大
会に54年ぶり
2度目の出場を
果たした浦和は
28日の1回戦
で光泉（滋賀）
と対戦する。初
出場した195

9年度の第39回大会に、当時1年生でレギュラーとして活躍していたのが、日本ラグビー協会の現場トップに立つ矢部達三専務理事（70）だ。現在日本ラグビー界の強化、発展と普及に努める同氏に当時の思い出や後輩へのエールなどを語ってもらった。
——出場を知ったのは。

「県大会の決勝当日にアイルランドのダブリンで聞いた。日本代表の欧州遠征やIRB（国際ラグビーボード）の総会があって、そのときに電話がかかってきた」

——聞いた心境は。

「その日が決勝だと分かっていた期待していたのでうれしかった。特に最後はタックルで堅く守り切って優勝したと知って感激した。何事にも替え難い喜びだった」

——競技を始めた経緯。

「小、中と同じ学校の先輩が浦高でラグビーをやっていて誘われて始めた。日本代表の試合をラジオで聞いて実況がかっこよかった。中学のとき、先輩に秩父宮ラグビー場に連れていってもらって感激し、男のスポーツでかっこいいなと思った」

——実際に始めて。

「想像を絶する痛さ、激しさ、つらさでこんなスポーツをやっているかとびっくりして、すぐにやめたくなった。でも我慢しながら続けていると、責任感も出てきてやめられなくなった。最初は耐えられずよく練習をさぼったが、『こいつはものになるからどうしてもやめさせない。連れて帰っていい選手にしよう』という先輩の情熱を知ってありがたかった」

——どんな選手だった。

「器用ではないが、突進が好きな選手だった。ポジションは5番、ロック。当時から身長は170センチぐらいで体は大きかったし、体力はあった」

——当時の練習は。

「顧問の先生はいたが、監督がいなかったのでOBが指導していた。自分たちで考えてやっていたこともずいぶんあった」

——全国大会の思い出。

「前日が大雨で、グラウンドがぐちゃぐちゃ。泥沼でやっている感じだった。当時の浦高はボックスが強く、展開で得点を取るチームだった。でも泥沼で球が回らない。われわれの得意なことが発揮できず、四條畷（大阪）に3-11で負けた」

——全国大会に出て。

「この経験は本当に大きかった。全国レベルのラグビーをある程度認識できた。出たことが大きな自信になったし、将来を望めるような経験だった。これがなかったら、おそらく大学でラグビーをしなかったと思う」

——後輩にエールを。

「いちOBとしては初勝利を挙げてほしいが、まずはいい試合、悔いのない試合をしてほしい。浦高の強みはタックル。素晴らしい守備で臨めばいい試合ができる」

■矢部達三（やべ・たつぞう）

日本ラグビー協会専務理事。浦和高一早大。浦和高で競技を始め、1年時に全国高校大会初出場。早大4年時に大学選手権初優勝と日本選手権初優勝に貢献。三菱銀行、ユニオンバンクカリフォルニア東京支社在日代表、早大ラグビー部OB会長などを経て、2004年度より日本協会評議員。11年度から現職。旧浦和市出身。70歳。

【埼玉新聞、12月23日】

* *

◆埼玉県立浦和高校 代表校紹介

【出場回数】54年ぶり2回目【学校創設】1896年【創部】1946年【戦績】1回戦敗退（昭和34）
【監督名】小林 剛（39歳）【部員数】72人3年生26人2年生22人1年生24人。

◇監督による戦力分析

【チームワーク】7pt とても仲は良い。試合中に盛り上げる声で正確な指示をもっと出せるとチームとしてのまとまりがよりできてくると感じる。

【キック】5pt ロングキッカーがいいため、球を動かしながらのキックの使い方が重要。

【フォワード】7pt ずっと力を入れてきた浦和高校伝統のモールには自信がある。大きな相手に対してどう戦っていくかが課題。

【ボックス】7pt 例年の浦高には無かったBKのアタック力を自信をもって発揮したい。さらなるテンポアップとフィットネスの向上が課題。

【タックル】8pt ポジショニングの速さが課題ではあるが、低く刺さるタックルで体の小ささをカバーする。

【チームにとって花園は「どんな場所」？】夢

今まで何人もの先輩方が花園を目指して負けてきたが自分達がやっと花園に出場できたので自分達と先輩方の夢舞台。【第93回全国高校ラグビーフットボール】